

持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン (概要)

別添2

1. 環境人材ビジョン： 持続可能なアジアの実現に必要な次世代型人材像

環境人材

持続可能な地球にはアジアの対応が欠かせない

急速な発展を遂げるアジア

経済成長
ライフスタイルの変化
人口増加

急激な環境負荷増大のおそれ

地球温暖化
公害・健康被害の発生
資源・食糧・水需要の拡大
生物多様性の減少 等

短期： 公害等による甚大な社会・経済面の被害
中長期： 地球規模の持続可能性への影響（気候変動等）

【持続可能なアジアを実現するために求められる視点】

1. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を希求する社会構造や産業構造の Paradigm Shift
2. 自然共生の思想等、多様かつ独自のアジアの伝統的な知見の活用と普及
3. あらゆる分野・産業で、長期的かつグローバルな視点での具体的な行動

本ビジョンにおける人材育成のターゲット

持続可能なアジアの実現に必要な人材

あらゆる分野・職種が必要

環境配慮型市民

実践

環境負荷の少ないライフスタイル

環境人材

構築

環境を統合した社会経済システム

影響

好循環

支持

環境・経済・社会を統合する社会・地域デザイン等の全体戦略を描き行動・実践していく環境人材

従来型環境専門家(自然保護、公害防止、環境アセス等)

環境以外の専門を有する各分野のリーダー

既存の組織において
ビジネス・技術・社会等の
グリーン化に取り組む人材

新しい組織において
ビジネス・技術・社会等の
グリーン化に取り組む人材

全市民・職業人・地域人 現在

環境配慮型市民 2050年

環境人材

環境人材に求められる3大要素

リーダーシップ

- ・ 経済社会活動に環境保全を統合する構想・企画力
- ・ 関係者を説得・合意形成し、組織を動かす力
- ・ ビジネス、政策、技術等を環境、経済、社会の観点から多面的にとらえる俯瞰的な視野

専門性

- ・ 環境以外の分野(法律、経営、技術等)の専門性
- ・ 専門性と環境との関係を理解し、環境保全のために専門性を発揮する力

強い意欲

- ・ 持続可能な社会づくりの複雑さ・多面性を理解しつつ、それに取り組む強い意欲

環境立国を人づくりから支えるため、日本のリーダーシップのもとアジア環境人材育成イニシアティブを強力に推進

2. アジアの環境人材育成・活用に向けた今後の方向性

望ましい方向性	<p>時期: 大学・大学院は3大要素を統合して学ぶことが可能</p>	<p>生涯を通じた能力開発</p> <p>環境人材は大学・大学院の期間で育成できるものではなく、生涯を通じたキャリア開発が重要</p>	<p>内容: T字型の知識体系</p> <p>自らの専門性と環境の関係の理解</p>	<p>手法・場所: 参加型、問題解決型、現場活用型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能性の現状と対策の緊急性の理解 持続可能な社会の実現に向けた強い意欲 持続可能な社会づくりに向けた各人の職業を通じたコミットメントの重要性の認識 各分野、職種で持続可能な社会づくりに必要とされる専門性 各人の専門分野と環境保全との関係の理解 新しいシステムを生み出す構想力 対立する利害を調整する合意形成能力 アントレプレナーシップ(起業家精神) </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>教室内</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義 ディベート・ケース等の参加型学習 <p>教室外</p> <ul style="list-style-type: none"> 実地研修(深刻な環境問題の現場等) インターンシップ 学生環境団体等による実社会での活動 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能性の現状と対策の緊急性の理解 持続可能な社会の実現に向けた強い意欲 持続可能な社会づくりに向けた各人の職業を通じたコミットメントの重要性の認識 各分野、職種で持続可能な社会づくりに必要とされる専門性 各人の専門分野と環境保全との関係の理解 新しいシステムを生み出す構想力 対立する利害を調整する合意形成能力 アントレプレナーシップ(起業家精神) 	<p>教室内</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義 ディベート・ケース等の参加型学習 <p>教室外</p> <ul style="list-style-type: none"> 実地研修(深刻な環境問題の現場等) インターンシップ 学生環境団体等による実社会での活動
<ul style="list-style-type: none"> 持続可能性の現状と対策の緊急性の理解 持続可能な社会の実現に向けた強い意欲 持続可能な社会づくりに向けた各人の職業を通じたコミットメントの重要性の認識 各分野、職種で持続可能な社会づくりに必要とされる専門性 各人の専門分野と環境保全との関係の理解 新しいシステムを生み出す構想力 対立する利害を調整する合意形成能力 アントレプレナーシップ(起業家精神) 	<p>教室内</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義 ディベート・ケース等の参加型学習 <p>教室外</p> <ul style="list-style-type: none"> 実地研修(深刻な環境問題の現場等) インターンシップ 学生環境団体等による実社会での活動 					
現在の課題	<p>アジア全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本を含む ・ 途上国に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3大要素が個別に教育されており、統合的に教育されていない ・ そのため、環境人材を体系的に育成する体制が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的学習の場の不足 ・ 環境キャリア情報のミスマッチ ・ 高度な専門性を持つ人材が先進国等に流出(頭脳流出) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性と環境の統合のための教育が不足 ・ 一般教養や副専攻の活用 ・ アジアの生活・開発の現場で貢献できる教育の不足 ・ 限られた資源(人材、予算)を優先付けできる俯瞰教育の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に赤で囲んだ部分の教育を強化すべき ・ フィールドワークやインターン等の現場体験の不足、企業等の受入体制の未整備 ・ 参加型学習、問題解決型学習の手法、指導者の不足 ・ 大学と、外部講師や現場等を有する企業等のマッチングの負担が大きい 	

3. 産学官民の協働によるアジアの環境人材育成イニシアティブの展開 (ELIAS: Environmental Leadership Initiatives for Asian Sustainability)

大学教育モデルプログラム開発・普及

- 強い意欲** 学部教養科目を想定
 - ・ 環境問題の現地見学、具体的な事例についてのロールプレイ等
 - ・ 地球環境問題等の科学的知識を得る講義・グループワーク
- T字型知識体系** 専門科目を想定
 - ・ 専門性を生かした環境保全の方策を企画構想する講義、演習等
 - ・ 環境・社会・経済の統合的向上という複合的な課題に関するロールプレイ、ケーススタディ、アジアの学生との交流等
- リーダーシップ** 大学院を想定
 - ・ 問題解決型フィールドワーク、インターンシップ

産学官民連携の環境人材育成コンソーシアム (仮称)

活用

体制

企業等・行政・国際機関・NGO

機能

- ① 産官学民協同教育コーディネート インターン・研究マッチング等
- ② 産官学民協同教育システム構築 人材ニーズ共有・プログラム共同開発等
- ③ 共通インフラ開発 教材・プログラム共有等

支援

活動エリア

環境人材育成プログラム 開発支援

対アジア向けプログラムの情報集約・発信機能

産学連携強化 (例: 環境ビジネス展開に向けた共同研究の推進)

「企業等」は民間企業のほか、第一次産業事業者含む

各界の強みを生かした環境人材育成の仕組みづくり

環境人材育成に取り組むアジアの大学のネットワーク化

体制

A国 B国 C国 D国 E国 F国 等

現場で真に必要な環境人材の育成

アジア諸国政府の支援

特徴

- ・ アジア各国の現場で活躍できる人材育成

機能

- ・ 教材・プログラム等の知見の共有
- ・ アジアの知見を活用した共同プログラム
- ・ 学生・教官の人材交流
- ・ 環境人材のネットワーク化 等

アジアの大学院の環境人材育成能力強化

環境人材育成モデルプログラムのイメージ

副専攻

行政官育成

経営人材育成 MBA

教育者育成

技術者育成

いずれか + いずれか

次世代型の環境人材育成手法の確立